

令和四年度における事業並びに財務状
況の報告をします。また、自己評価・学校
評価を掲示して情報公開します。
ホームページからも閲覧可能です。

期間令和五年五月二十九日より

学校法人 藤田学園 藤田幼稚園

理事長・園長 藤田道信



事業報告書

令和4年度



設置者	学 校	法 人	藤 田		学 園		
幼稚園名	藤 田			幼 稚 園			
理事長・園長						藤 田 道 信	
所在地	静岡県富士市大淵2964番地の1						
定員数	300名	認可クラス数	年少	年中	年長		
			3	3	3		
		学年定員数	90名	105名	105名		

理事長挨拶

本学の使命は、建学の精神に基づき運営され、幼児教育を通じ人間社会の幸福をつなげ・ひろげていく架け橋となるよう、研鑽努力することであります。

教育内容の充実発展・施設設備の整備充実・保護者の教育費の負担軽減・家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営を目指しています。その為には、学園を取り巻く社会環境や内部環境を分析した経営を行わなければなりません。本学の発展は本質を見失わず、着実に歩みを進めたいと願っています。法人の役員・教職員、そして保護者の皆様とともに、子どもたちの幸福と健やかな成長を願い挨拶とします。

建学の精神

人間の一生の中で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響をおよぼす幼児期の教育は何事においても大切な時期である。家庭教育、社会教育の与えるものは、幼児の生涯を左右するといっても過言ではない。集団生活の中で、幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ねさせ日常の基本的な生活習慣と社会性を養い、心身ともに健全なる発達を助長することが教育の場であり、使命である。その責任は無限であり、やがて次代を担う若者としてたくましい人間育成の理念と信念をもって、日々自ら研鑽に努め教育道をもって地域社会の先覚に努めることにある。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	藤 田 学 園
学校法人認可年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
学校法人登記年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
設置する園名	設 置 認 可 年 月 日
幼稚園	藤田幼稚園

(2) 役員の数

(単位:人)

選任区分	定数	実数	任期
園 長	1 人	1 人	4 年
評議員	2 人	2 人	4 年
学識経験者	3 人	3 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
理事計	6 人	6 人	年
監事	2 人	2 人	4 年

(3) 評議員の数

(単位:人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	3 人	3 人	
卒業生	5 人	5 人	4 年
父母	人	人	年
学識経験者	5 人	5 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13 人	13 人	4 年

幼稚園の概要

教育目標・方針	【富士山のように】 1. じょうぶでねばりづよい子 1. ゆたかなこころの子 1. どりよくしてつくりだしていく子 1. すすんでとりくめる子 こどもを第1に 個の尊重と集団生活の調和 時代認識と将来性 子どもの健やかな成長を教師、保護者、地域社会が連携協力し支えます。 思いやり感謝の気持ちを大切にします。公共性を重んじみんなでルールマナーを進んで守ります。普遍である本質を守り時代の変化を認識します。
特徴	子どもをまん中にした思考と実践を進める

園児数(クラス毎)

当年度3月31日現在

学級名	満3歳児			3歳児			4歳児			5歳児			学年計			
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計				
つくし	11	4	15										15			
すみれ				9	12	21							42			
たんぽぽ				9	12	21										
れんげ																
ゆり							10	10	20				38			
ばら																
ひまわり							8	10	18							
ふじ										12	11	23	46			
さくら										12	11	23				
もも																
合計	11	4	15	18	24	42	18	20	38	24	22	46	男	71	女	70
	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	141			

※満3歳児入園は3歳児クラスにて対応

教員数	園長	副園長	教諭	助教諭	養護教諭	講師	臨時教諭	その他							合計
	1		8												9
職員数	事務長	事務主事	事務員	用務員	パート運転手	調理員	警備員	パート事務	その他						合計
	1							1							2
当年度卒園予定	男	女	計(名)		建物面積		1113.35		m ²						
	23	38	61		園地面積		2914.93		m ²						
施設名	保育室	遊戯室	預かり室	防災倉庫	ひだまりの森 (敷地外自然教育施設)		9,593		m ²						
	9	1	1	1											

事業方針	事業の推進	・園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえた教育運営を実践した。 ・集団生活の中で様々な体験ができるよう計画し実践した。 ・大淵地区唯一の幼稚園となり教職員が自覚しより地域を意識した。 ・家庭に対して面談や配布物等、子育ての情報を共有し連携を図った。 ・幼児期の大切な育ちについてコロナ禍の中、出来る事を地域に発進した。(協議会・小学校) ・地域社会と共に取り組みをした、(文化祭・お茶うがい・芋畑・落花生・ひまわり畑・幼年消防) ・宣伝広報ではHPのシステム上問題があり更新が滞った。しかし富士市の市民情報に掲載した。 ・幼児教育の無償化に伴い実務の適応力を図り、ICT化は今後の課題だが一部取りまとめた。 ・コロナ対策を踏まえた教育活動を常に注視しながら実践した。 ・異年齢の関わりから子ども達同士が学び合う場をつくる。(クラス配置の意味)	
	予算編成の基軸	①園施設の補修・修繕を事あるごとに行なった。(毎日の施設安全点検を実施。) ②教材・教具の充実を図り、教育力の向上を進めるよう教材研究に努めた。 ③ひだまりの森の環境整備(乗用草刈り機の車庫を設置) ④保健衛生・安全・防災・防犯等の施設、設備、備品はその都度補充したり、更新した。(AEDの更新) ⑤職員室(会議室)・図書室・談話室を設置した。 ⑥教職員の研修及び処遇改善を進めるため、研修を重ねている。 ⑦経費の無駄を省き、留保金の確保を図る(施設型給付園となり運営資金に余裕が生まれた)	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	教員の資質向上と実践	教育実践を通じ互いに高めあい研修に励む事が出来た。 感性を磨くき表現していく事を夫々に楽しめるようみんなで共有した。 技術や技能、知識習得に励み自身の資質向上は常に心得た。
		個と集団	障害等、専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な支援を進める、適切な保育を誘導した。(みはら園等への編入) 非認知能力の発達を促し、子どもの可能性を広げるカリキュラムを構成。 集団生活の教育力を活かし、一人一人の育ち合いを実践した。
2	研究計画	研究活動	積極的に教材研究をする。自らの技術的・技能の向上を図る事を常とした。 研修会に参加した。(公私教育研修) オンライン研修に参加した。自ら学ぶ体制を整えた。
		自己点検評価	常に自己点検・評価をし自己研鑽に励んだ。 学校評価により良い教育運営が図られるよう評価の整備を進めた。 外部の評価や意見(地域・保護者等)を活かし、より良い教育を目指した。
3	地域連携計画	地域連携	地域コミュニティの主催する行事、事業に参加。地域教育機関との連携を図り、富士山を踏まえた事業協力やその他機関、団体の協力を進めた。またコロナ対策を踏まえた対応。地産地消を応援する。
		幼少保等連携	小学校との情報交換の充実。子ども達の交流など機会を使って園児と児童、教員間の交流はコロナで難しかった。大淵地区の幼保小で、おやこんぼ事業引き続き展開した。園長が大淵1小運営協議委員で情報共有した。
4	施設設備計画	教育研究	教育活動を充実する為の設備整備を進め、機器備品の状態を確認し必要性に応じ廃棄・整備した。日常の管理に心掛け耐久性の向上や美化に努めた。
		施設設備	教育環境設備の対応を図ると共に、園舎施設の老朽化また修繕について計画性をもって対応するなかでエアコンの設置に踏み切った。 LED化未実施の部屋のLED化がまだできていない部屋が3部屋ある。 安全管理と同時に修理修繕を常に行い、整備に努めた。
5	管理運営計画	事務・園務運営	事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図る。自己点検評価、個人情報、情報公開にも適切に対応した。 施設利用の実務を市当局との連携を進める事ができた。
		労務環境と職員の調和	女性の働く場として、教育の充実・子育て支援の充実に繋がる相乗効果を目指した。女性職員同士の互助精神を育んだ。 働き方の見直しと職員間の信頼、園の目指す姿を明確にし、働くことが楽しくなる職場づくりを推進できるよう工夫した。
6	財務計画	施設型給付園としての対応	新制度移行初年度であり、経営実務について間違いのないよう対応できた。 経費削減に努め留保金の確保を行い、将来の安定を図った。 減価償却額は確保した。
		計画的運営と経営努力	教育環境の充実と活気を持ち、選ばれる幼稚園を目指した。 地域性を踏まえ今後の経営を思慮深く進めた。 子どもの最善の利益を追求した。 地域の乳幼児保育教育を本園が担っていく事を決めた。 園児数の自然減が厳しい状態、無理な出費は控えながら有効に使用した。 出来ることは業者に依存しないで、教職員で対応した。

令和4年度の教育活動等に対する学校評価

令和5年3月10日

学校法人藤田学園藤田幼稚園長 藤田道信

学校法人藤田学園藤田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事においても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりよくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題

- ① 子ども・子育て新制度移行対応。
- ② 教職員の資質向上
- ③ 保護者及び地域に期待される教育機関
- ④ 教育環境の整備と財政基盤の確保
- ⑤ コロナ対策

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	取組・反省と改善策	評価点	評価・意見
① 子ども・子育て新制度移行対応	A	新制度に移行し、施設型給付園となり、実務に戸惑う事が多くあったが、行政の丁寧な対応で何とか滞りなく進める事ができた。今後もしっかりと理解を深め新制度を上手に活用したい。	A	新制度移行ご苦労様でした。親の立場として、無償化と幼稚園の経営の在り方がどのように制度して運営しているのか分からないが、心配なく子どもを預けられた。より良い幼稚園経営になるよう応援します。
② 教職員の資質向上	B	教職員の自己評価にあるように、研修と研究の評価が低い、日常の業務と研修時間の確保が労務的に課題がある。日々の研鑽の在り方を研究することが重要である。	A	先生達が自ら自覚していることが分かり良かった。スキルアップしたい気持ちがあると無いのでは違うと思う。工夫して、頑張ってもらいたい。
③ 保護者及び地域に期待される教育機関	B	今年度もコロナ禍の対応であり、保護者の教育参加・地域社会事業との関わりは制限があった。しかし、大淵地区文化祭・幼年消防クラブと消防団との防火防災啓発・幼小連携・運動会の	A	今年こそ、藤田幼稚園が地域の中で活躍できれば良いなと願っていました。そんな中コロナ過でも、出来る範囲の対応をされてきたことは大変評価できます。消防団と一緒に火災予防を呼びかける姿、農業体験やお茶うがい、

		規制緩和・農業体験等、出来る限りの活動を実践した。また、今年おこったスクールバス送迎の事件・不適切な保育については、事件判明直後に速やかな対応を実施し、保護者のみならず大淵地区まちづくり協議役員会にも本園の取り組みについてお知らせをした。緊張感をもって、今後も適切な対応の重要性を感じた。		地区文化祭の作品展示は他の学校施設の展示が無い中、藤田幼稚園の作品がとて良かったです。これからもコロナも心配されますが、この状況下で頑張って、地域社会との連携を図ってほしいと思いました。また、保護者としてもバスや不適切な保育対応についての速やかな対応に感謝しています。
④ 教育環境の整備と財政基盤の確保	C	新制度に移行し、施設型給付園となり、財政的に安定し、教職員の処遇改善もできました。しかし今後、大淵地区の少子化状況を鑑みると必ずしも安心できる状況ではありません。今後の取り組みをしっかりと推移して進めなければならないと思っています。	A	経営的な事はあまりわかりませんが、子どもが少なくなっている事は実感しています。そんな中、大淵幼稚園の閉園や中野保育園の民営化についても心配です。大淵地区の幼稚園として、永続できるよう頑張ってほしいと思います。
⑤ コロナ対策	B	本年度もコロナ禍の対応が余儀なくされ、感染対策を進め、その中で教育活動を見直し、創意工夫して実践してきました。今後、類型が変わる事から改めて今後の課題を検証していく必要があります。	B	コロナで出来なかった事や工夫したことの検証を進め今後の対応に期待します。これからも、状況を正しく判断して、健康的な幼稚園生活が子どもも先生も保護者も送れるよう、支えていってほしいと思います。
財務状況	C 本年度より新制度施設型給付園になり、財務状況は改善されているが、少子化にともなう園児減少はますます加速している事から、地域の子育てニーズを検証し、幼稚園教育及び保育施設として近い将来像を見据えた在り方を定めていく時期が到来している。行政担当部局と連携をとって進めることが重要である。			

結果・評価

A：十分に成果があった

B：成果があった

C：少し成果があった

D：取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

教育重点目標である「みつけよう やってみよう まなび 育ち合う子」を実践した。私たちの使命は、子どもが自ら関わり合い、協力し、知恵を思いを出しあい、自分や仲間の目標や課題に向かって取り組み、達成感を味わい、共有することを通じて、非認知力・自己肯定感を育めるように環境を整え指導援助する事です。

その使命を達成するため、本年度はその基盤となる①子ども・子育て新制度移行対応。②教職員の資質向上。③保護者及び地域に期待される教育機関 ④教育環境の整備と財政基盤の確保 ⑤コロナ対策の5つの目標をもとに経営・教育保育の両面からアプローチをしてきた。子どもや家庭、教職員を取り巻く環境の充実を図る事が重要な課題であり、より安心安定した保育活動が適切に行われることが子ども達の最善の利益に繋がることを目標の成果及び反省から改めて自覚できた事はお大きな成果でありました。

また、このようなハード面の成果とは別に、ソフト面の教育保育の活動については、ホームページや週のお知らせ、メール等を使い、活動の成果やたくした思いや願い目的の周知を図り、子ども達の育ちについて保護者や地域社会に発信し幼児教育の必要性和重要性を共有し、子どもの素晴らしさ、子ども達の最善の利益を目指す社会づくりとなるよう実践も進めた。

そのような実践を踏まえ、引き続き私たち以下の事項について確認するところである。

- ① 幼稚園の運営基盤強化にともなう新制度への取り組みは継続して検討途上である。
- ② より良い教育実践の為に、教職員の資質向上と処遇改善は重要である。
- ③ 保護者の理解・協力は何よりも重要である。子どもの健やかな成長を共に共有し喜び合える環境は本園のもっとも得意な環境である。
- ④ 施設設備の充実と機能の向上は、気候変化・老朽化・環境衛生上等、大切な取り組みである。
- ⑤ 財政基盤の強化は引き続き大きな課題である。

5 来年度、取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
少子化にあって充実した保育運営の取り組み	少子化の進口中、クラスの園児数も減少してきているため、よりきめ細やかな保育教育につとめ、子ども達の健全な育成に取り組む保育内容の実践を進める。
教職員の資質向上	ひとり一人の教師が成長した実感を味わえ、喜べる研修方法や内容を検証し進めていきたい、またその中で処遇改善を進めより意欲的に学びの励みに繋げる。
保護者及び地域に期待される教育機関	保護者のニーズ・地域の実態・を十分に踏まえ、教育事業の取り組みを検討する。地域の中で重要な教育機関としての在り方をしっかりと構築していく。
コロナ対策と教育内容の見直しと再編成	今後もコロナに対しては十分に留意していく事が大切である。コロナ禍で変遷された様々な事業を再検討し、新たに再編成しながら教育内容の充実を図るとともに保護者の理解協力を得ていく事を大切に進めていく。
保育園の民間移管	地域の状況を鑑み大淵地区の保育教育に献身的に努めたい、行政当局との指導の下、学校法人として取り組みを進めていく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント（抜粋）

- ・今年も本当にご苦勞様でした。コロナ禍で心も体も疲れていますね。そんな毎日を子ども達の安全を優先の考え色々と取り組んでいただきありがとうございました。
- ・スクールバスの事件や不適切な保育など驚きました。藤田幼稚園ではそんなことは無いと信じていますが、あんな報道があった直後は心配になりました。しかし、すぐにお便りやお知らせがあり安心できました。
- ・先生達も大変ですね。私たち保護者も悪い事をすれば子どもを怒鳴ったり怒ったりします。そんなときに他人からみれば虐待と思われるかもしれないですね、そこだけを見るとそうになってしまうのかなと思うので、その時は勇気をもってどうしたかお互いに聞けばいいと思いますね。がんばれ先生達、子ども達をよろしくお願いします。
- ・第2小学校が今年で終わりですね。昨年は大淵幼稚園が無くなり、寂しく感じますね。少子化や高齢化を身近に感じます。幼稚園もこれからどうしていくのか大きな問題ですね。私たちも応援していきますので頑張ってください。
- ・保育園も民営化になるのですか、大淵地区も変わりますね。大淵地区の子ども達の施設は藤田幼稚園さんだけになるのでしょうか。
- ・今年で卒園生が45期になるという事で45年もたったと思うと歴史を感じます。100年頑張りました。



財 務 状 況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	252,000
寄付金収入	46,000
補助金収入	84,783,430
付随事業(補助活動収入)	7,857,500
受取利息・配当金収入	3,152
雑収入	363,982
借入金等収入	0
前受金収入	0
その他の収入	1,245,734
資産売却収入	51,930
資金収入調整勘定	△ 101,700
前年度繰越支払資金	21,357,239
収入の部 合 計	115,859,267

支 出 の 部	
人件費支出	59,470,081
経費支出	19,322,067
借入金等利息・返済支出	874,471
施設関係支出	432,740
設備関係支出	3,427,430
資産運用支出	5,341,600
その他の支出	1,136,529
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	0
翌年度繰越支払資金	25,854,349
支出の部 合 計	115,859,267

【財産目録】

科 目	金 額
基 本 財 産 計	148,940,316
運 用 財 産 計	142,042,808
資 産 の 部 合 計	290,983,124
固 定 負 債 計	4,047,000
流 動 負 債 計	1,183,124
負 債 の 部 合 計	5,230,124
差 引 純 資 産	285,753,000

(参考)

事業活動収入計 95,803,343

事業活動支出計 84,979,362

園のコメント

少子化が進み園児数の自然減はコロナ禍の大きな影響により加速して止みません。本学の建学の精神に基づく幼児教育の実現は、教育内容の充実・教職員の資質向上・優秀な人材の確保・環境教育の設備充実を進めなくてはなりません。しかし、地域の少子化による園児数の現象が進み、学園経営は大変難しい状況下であります。そこで、令和4年度より新制度の施設型給付幼稚園として少しでも経営環境の改善を図り、幼児教育の重要性・子どもの人権尊重・家庭教育への寄与・地域社会への貢献を果たすべく、本学が地域の幼児教育の担い手として、また地域子育てのコミュニティとしてその責務の重大さをあらためて認識し、日々、研鑽を重ね教育環境の充実と教職員の献身的な努力により幼児教育の振興に取り組んでまいりました。また、経営状況は計算書からも分かる通り若干ではありますが好転してまいりました。しかしながら地域の少子化は今後も進み、経営母体の縮小は引き続き進むことが予測されることから気を引き締め学園経営を進めることは永劫不変な課題です。そして、本学の立地する学校区の公立幼稚園廃園・公立保育園民間移管・小学校統廃合・小中一貫教育が始まり、本学の責務はますます地域の中で重要となり、幼児教育施設としての使命を果たすべく、教職員一丸になって研鑽努力に努めることに邁進する所存です。今後ともご指導ご支援をお願いいたします。

【事業活動計算書】

科 目	決 算 額
教育活動収支の部	
学生生徒等納付金	252,000
寄付金	46,000
補助金	87,228,780
事業収入	7,857,500
雑収入	363,982
その他収入	0
教育活動収入計	95,748,262
教育活動支出計	84,908,891
教育活動収支差額	10,839,371
教育活動外収支の部	
教育活動外収入計	3,152
教育活動外支出計	70,471
教育活動外支出差額	△ 67,319
経常収支差額	10,772,052
特別収支差額(資産処分)	51,929
基本金組入前当年度収支差額	10,823,981
基本金組入額合計	△ 2,346,100
当年度収支差額	8,477,881
前年度繰越収支差額	△ 43,062,580
翌年度繰越収支差額	△ 34,584,699

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	262,581,725
流動資産	25,956,049
資産の部合計	288,537,774
負債の部	
固定負債	4,047,000
流動負債	1,183,124
負債の部合計	5,230,124
基本金の部	
第1号 基本金	312,624,027
第4号 基本金	7,713,672
基本金の部合計	320,337,699
繰越収支差額	△ 34,584,699
純資産の部合計	285,753,000
負債及び純資産の部合計	290,983,124

理事長・園長 藤田道信